

教職コンソーシアム通信

学びの架け橋



人にまっすぐ。
大阪教育大学

01 大教大キューピッド

02 リレーエッセイ

03 交流事業の紹介

04 加盟校出身学生・卒業生の紹介

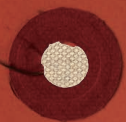
05 加盟校の取り組み紹介

06 大学トピックス／編集後記

母校と大阪教育大学をつなぐ 「大教大キューピッド」

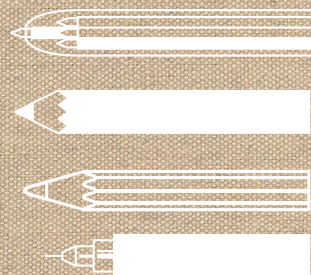
学生が大学と出身高校をつなぐプロジェクト「大教大キューピッド」に、今年も新たな仲間が加わりました。皆さんの先輩が母校を訪問し、大教大の魅力を伝えます。





RELAY ESSAY

リレーエッセイ



自信のみなもと

大阪教育大学教育心理科学講座准教授
安達 智子

私は、心理学をベースにしたキャリア教育について研究をしています。そこで今回は、皆さんが教師になるというキャリアを形成していくときに大切な心の要素である自信についてお話ししましょう。

私たちは、何か新しいことにチャレンジするときに、「うまく出来るかな？」と心の中で自分の能力を見積もります。教師という職業にチャレンジしていく時もそうですね。「先生になれるのかな?」「先生としてうまくやっていけるかな?」と自分に問いかけるでしょう。このときに沸いてくる「自分は出来る」「きっと大丈夫」という感覚が自信です。自信は現実の能力とイコールではなく、自分にはその力があると信じているに過ぎません。けれども興味深いことに、能力と同じか時にはそれを上回るほどの力を発揮します。たとえば、目標を達成できる自信があれば、私たちは肩の力を抜いて行動出来ます。壁にぶつかっても何とか乗り越えようと頑張ります。逆に自信がもてないと、行動するのをためらったり、出来ないことの言い訳を考えたり、実力が露呈するような場面を避けようとしたりします。行動している最中でも「上手く出来ないのではないか…」「失敗したらどうしよう…」と、否定的なことばかりが頭をめぐり、実力を発揮しにくくなります。

自信は私たちがもともと備えているのではなく、色々な経験をする中で私たちの内に育ってくるものです。そのプロセスには四つの栄養素が関わりをもちます。一つ目は、自分の力で上手に出来たという経験で、これは強力な自信の源になります。例えば、友人の相談にのる、勉強を教えるなどを経験して上手く出来たという人は、教師になることへの自信が育ちやすくなります。二つ目は、良いお手本に触れることです。学校の先生が

働く姿を間近に見たり、先生方から話を聴いたりすることは、教師になることへの自信を刺激します。三つ目は、人から認められる、励まされる、評価されるなどです。良く出来ている点について分かり易い言葉で返されることは、私たちの自信につながります。ですから皆さん是非ほめられ上手になってくださいね。そして四つ目が、落ち着いた気持ちやリラックスした心身の状態です。ゆったりした心や身体の状態を感じていられるとき、私たちは「どうにかなる」「大丈夫」と思うことができます。

教師になる自信が目減りしているなど感じた時には、心の栄養を自分に与えてみてください。例えば、過去に出来たことをリストアップしてみる、お手本になる先生達を観察する、手伝う、真似する、アドバイスをもらう、誰かに言葉をかけてもらう、自分の長所を人から教えてもらう、あるいは自分なりのリラックス法を見つけるのも良いですね。リラックスしている時や楽しい気分である時、能力は変わっていないのに自信計測器の針がふしぎとプラスにふれるものです。少しおまけを付けたぐらいの自信をもつことで、皆さんはのびのびと行動でき、実力以上の力を発揮出来るでしょう。

謙虚でいることが美德とされる私たちの社会で、皆さんは自分の力を値引きすることが癖になっていませんか? せめて心の中だけでも自分におまけをつけてあげましょう。



制約理論で学校のお悩み解決 「教師の学び舎」特別講座

「教師の学び舎」特別講座を天王寺キャンパスで開講し、学校教員や大学院生ら約40人が参加しました。ゴールドラット・コンサルティング・ジャパン CEOの岸良裕司氏が、「学校のお悩み解決ワークショップ」と題して、マネジメント理論「TOC(制約理論)」を用いた課題解決の手法を解説しました。

岸良氏は、業績不振の工場をTOCによって立て直す様子を描いた小説「ザ・ゴール」の著者として知られる物理学者エリヤフ・ゴールドラット博士の愛弟子で、博士が唱えたTOCをセミナーやコンサルティングを通じて広く伝えています。

岸良氏はまず、TOCについて「現場で起こる様々な問題を掘り下げていくと、原因となっているのはごく少数の要素であることがわかる。それを的確に見つけ出し、集中的に解決することで効率的に組織を改善するというのが基本的な考え方」と説明。経営資源(リソース)、時間、人生は有限であることを理解したうえで、1つの問題を解決することによって連鎖的に複数の問題を解決できる「ヘッドピン」を見つけ、そこにリソースを集中させることが大切だと語りました。

ワークショップでは、初めに教員の長時間労働や生徒の読書離れ、業務分担の偏りなど、教育現場で起きている問題点を列挙したあと、仕事を持ち帰らない、生徒が自ら学んで発見する、助け合える職場環境など、目標となる望ましい状況を導き出しました。続いて岸良氏が、業務を付箋に書き出し、その進捗状況を「着手待ち」「実行中」「中断」「完了」「助けて」の5項目に分類する「やりくりボード」を提示。これによって互いの状況を把握し、助け合う職場にしていこうと、業務を効率化し、教育に注力することができると説きました。

最後に岸良氏は「皆さんが今日のワークショップで得るものがあつたなら、必ず実行に移してほしい。どんなこともすぐにできるようにはならず、積み重ねが必要。明日からチャレンジしてください」と激励しました。

参加者たちは「互いの状況が見えるようになることで、自分だけ負担が大きいといった不満がなくなり、困っているときに誰かに頼りやすくなる」「チームで助け合う方法を見つけられた。やはり協働が大切なのだと感じた」などと感想を話しました。



加盟校出身学生・卒業生の紹介



うたさか たくま
歌坂 拓真 さん

学校教育教員養成課程小中教育専攻社会科教育コース2回生
三国丘高等学校2016年度卒

—高校時代一番の思い出は？

ハンドボール部での部活動です。中学のときはどちらかというと「やらされている」感じがありました。でも高校では、どうすれば上手くなれるか、自主的に考える雰囲気がありました。特に印象に残っているのは、最後の試合。負けましたが、皆で一生懸命やってきたことを出せたと思います。今でも高校OBの社会人チームで時々ハンドボールをやっています。

—教員をめざすきっかけは？

中学校で、ハンドボール部の顧問になりたいと思ったことです。日本ではまだ認知度が低いので、もっと多くの人に知ってほしい。初めて部活を始める中学生に知ってもらうことで、ハンドボール人口の裾野を広げたいです。

—大教を選んだ理由は？

子どもへの指導法をきちんと学べると思い、教育大学がいいと思いました。社会科教育コースを選んだのは、一番好きな教科だから。特に地理が好きでした。いろんな国に行ってみたいと思っていて、各国の

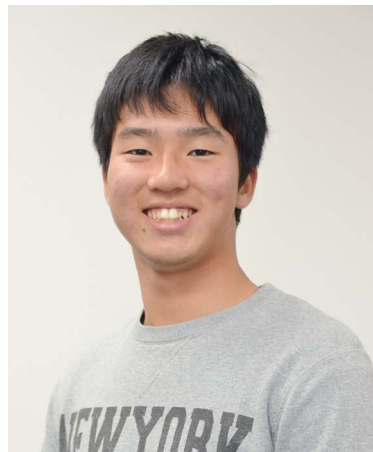
風土などを学ぶのが面白かった。大学生の間に、登山と海外旅行には絶対行きたいです。

—部活は何を？

アメフト部に所属しています。大学では遊ぼうと思っていたのですが、部の新入生歓迎イベントに参加したら楽しくて、結局入部しました。今一番難しいのは、体重を増やすこと。体が細いと骨折することもあるので、筋トレと食事を増やして100キロくらいにしたい。あと15キロほどですが、たくさん食べるのが辛い時があります。

—アメフト部はおすすめする？

楽しいのでおすすめです。週5で練習があり忙しいですが、一緒に厳しい練習を乗り越える分、部員同士の繋がりは強い。アメフトをやったことない人でも、ポジションがいっぱいあるので、足が速いとか得意なことが一つあれば活躍できます。





加盟校の取り組み紹介

MEMBER HIGH SCHOOLS' PROGRAMMES

大阪府立春日丘高等学校

春日丘高校は、明治44年(1911年)に三島女子技芸学校として始まり、大阪府立茨木高等女学校を経て現在の校名となり、本年創立107年目を迎えた歴史と伝統のある学校です。



社会的責任の自覚の下で「自主」「自律」「自由」の精神を発揮することの大切さを重んじた教育を推進しています。制服はなく、服装は「高価、華美にならず勉学にふさわしい身なりを、自らの判断で整えること」となっています。

本校は全日制の課程と定時制の課程が併置され、施設設備は共有となっています。50分授業で、週に2日は7時間目まで授業があります。部活動の時間は制限され、延長した場合でも17時30分には活動を終えて下校することとなっています。

普通科のみの1学年8クラスで、ほぼ全員が4年制大学への進学を希望しています。文系と理系の選択は3年生からで、2年生までは幅広く学習することを主眼とした教育課程を編成しています。

自習室

図書室内にも自習スペースはありますが、本校100周年の記念事業で創設された「ウィステリアホール」では、平日は7時30分から18時まで、土曜日は午前中に自習することが可能です。考査前等で部活動がなくなると利用者が多くなります。



土曜日の取り組み

サタデーセミナー(通称サタゼミ)と呼ばれる講習を行っています。フィールドワークを含む様々な講座があります。本年から、卒業生による学習支援を含む講座も計画しています。講習を行っている時間帯は部活動も禁止となっています。

学校行事への取り組み

基本的に生徒が主体的に企画や運営を行っており、生徒会が中心となって、各学期の始業式と終業式、「藤蔭祭(体育の部)(文化の部)」、学期ごとに行われる「クラスマッチ(球技大会)」、さらには中学生向けの学校説明会にも取り組んでいます。

国際交流

夏季休業期間中にオーストラリアのパスで語学研修を行っています。今年は20名の生徒が参加予定です。また、姉妹校提携を結んでいるアメリカのミネアポリスのサウスウエスト高校とは定期的な相互交流を行っています。今年度は6月にサウスウエスト高校から来校、3月には本校から交流に行く予定で、互いの生徒の自宅にホームステイします。他にも、JICAの研修で来日している海外の方に英語の授業に入ってもらおう交流も行っています。



JICA研修生との交流

ユネスコスクール

2014年度よりユネスコスクールに加盟しており、他のユネスコスクールと共同して、東北被災地へのボランティア派遣を7年続けて実施しています。全日本高校模擬国連大会・教育模擬国連大会へも2年連続出場し、生徒スタッフを派遣しています。また、毎年各地のユネスコ協会の研修会へ、パネリストとして生徒を派遣しています。

部活動

部活動の加入率は高く、9割以上の生徒が熱心に活動を行っています。昨年度大阪府高等学校選手権大会でベスト8に進出した硬式野球部をはじめ、近畿大会に出場した陸上部、硬式テニス部、バドミントン部、水泳部、囲碁将棋部があります。また、今年度は陸上部が全国インターハイへ出場します。

「絶対、教員になるぞ！」 壮行会を開催

7月から始まる教員採用試験に向けて、壮行会を開催しました。試験を目前に控えた学部生・大学院生に「絶対に合格してみせる」という強い決意と自信をもってもらおうと実施したもので、約100人が参加しました。

昨年3月まで大阪府教育庁で教育監を務めた和田良彦副学長が、求められる人物像や面接のコツ、模擬授業対策などを講演。「教師になりたいと思った『きっかけ』は、人それぞれのエピソードがあり、個性が見えやすく、アピール力が強い。志望動機に必ず盛り込んでほしい」などとアドバイスしました。

最後は全員で「絶対合格するぞ！エイエイオー！」と拳を振り上げ、気持ちを奮い立たせました。

大阪府の高等学校教員を受験する学生は、「筆記試験ではどんなことを問われているか、面接官がどんな視点で見ているかなど、具体的で試験に直接いってくる内容が聞けてよかった。しっかり対策し、落ち着いて試験に臨みたい」と意気込みました。



本学大学院生が南極観測隊に参加 報告会を開催

本学大学院理科教育専攻2回生の杉浦裕紀さんが、第59次南極地域観測隊夏隊に同行者として参加し、その報告会を開催しました。

杉浦さんは、2017年11月から2018年3月にかけて南極に渡航。大陸上の「S17観測拠点」に約1か月間滞在し、観測装置の設置や、風や気温などによる雪面の変化を調べる観測などに携わりました。

報告会で杉浦さんは、観測隊に参加したのは学部時代の恩師に誘われたのが発端だったと明かし、「こんな機会をもらえるなら休学してでも行きたいと思った」と当時の心境を語りました。また、強風で地面の雪が巻き上げられる地吹雪(ブリザード)にまつわる苦労や、夏の昭和基地は気温がプラスになり雪もかなり溶けること、S17観測拠点での日常生活などを解説しました。来場者から一番感動したことを聞かれると、「南極の月を見た時」と答え、「極域でしか見られない月の様子を目の当たりにして、南極に来たのだと実感しました」と語りました。



編集後記

府立高校教職コンソーシアムが発足した3年前から連携事業に携わってきた職員が異動となり、その後任として4月より広報室に配属となりました。本コンソーシアムの活動に尽力してきた諸先輩方の想いも引き継げるように頑張っていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、今号では、本学学生が母校を訪問し、先生や後輩に自身の学生生活や大学の魅力を伝える「大教大キューピッド」が表紙を飾りました。身近な先輩から大学の情報を得る機会を設けることは、高校生にとっても、受験勉強のモチベーション向上につながることが期待できます。加盟校においても、キューピッドの受け入れを前向きにご検討いただければ幸いです。

(U)

大阪教育大学のSNSアカウント



公式Twitter

@OsakaKyoikuUniv



公式Facebook

<https://www.facebook.com/OsakaKyoikuUniv>



公式Instagram

@osakakyoikuuniv

イベント情報やニュースなど、大教大の「今」を発信しています。ぜひフォローしてください。